

## 「JDC 低床免震システム」が床免震で日本初の一般評定を取得しました

これまで防災機関の監視指令室やサーバー室等に採用され、お客様からも満足を頂いている「JDC 低床免震システム」ですが、さらに公的な第三者機関である一般財団法人日本建築センターにて技術性能の審査を受け、床免震では日本初となる一般評定を取得しました。(BCJ 評定-IB0009-01)

本審査では、地震時の免震性能だけでなく、部材やシステムの耐久性、終局状態での性能確認など様々な性能上のリスクに対して厳しい審査をクリアし、信頼性の高い性能が証明されました。また、解析技術も振動台での繰り返し実証検証を行い、設計手法においても高い評価を得ています。

低床であり優れた免震性能を有するメンテナンスフリーの低床免震システムは、より安全・安心な技術として、防災関連施設をはじめ、企業の BCP 対策等、幅広い分野での活用が期待できます。

JDC 低床免震システムは新聞各社様にも取り上げられました。

▶日本国土開発／床免震で国内初の一般評定取得／低床、配置換えにも柔軟対応 [2016年11月17日3面]



低床免震システムの概要

日本国土開発が開発した床免震システムが、床免震では国内で初めて、日本建築センターの一般評定を取得した。転がり滑り方式の免震支承により、建物内部の特定部分だけに免震性能を持たせる技術。OAフロアなどを含めた仕上げ面までの高さが200ミリと低床で、室内の配置換えにも柔軟に対応できる。同社は一般評定取得を機に、防災拠点などでの採用を目指し、行政機関や設計事務所などに対する提案活動を強化する。

一般評定を取得したのは「JDC 低床免震システム」。美術品や通信機器などを地震から守る免震装置として開発した「ゆれガード」を応用・改良し、2007年に商品化した。

免震装置と、鉄骨フレームや置敷式OAフロアなどを含む床面で構成する同システムは、一般的な免震床の高さが300ミリ程度であるのに対して200ミリと低く、免震床フレームの下への配線などが容易に行える。積載物の重量や位置が変わっても一定の免震効果を発揮するため、リニューアルやレイアウトの変更に柔軟に対応できる。

鉄骨フレームなど工場で加工済みの部材を使用するため施工が容易で、100平方メートル程度のフロアなら1週間で設置でき、特殊な油脂類やダンパーなどを使用しないため、設置後のメンテナンスも不要という。

不二越と共同開発した免震支承は、レール溝を設けた3枚のパネルで金属製のボールを挟んだ構造。地震が起きると、1層目は横、2層目は縦方向にパネルがスライドし、その際にパネルとボールに生じるスピン摩擦で揺れに対する減衰力を発生させる。3次元振動台での実験では、震度6強の揺れでフロアに加わる約1000ガルの加速度を、250ガル以下に低減できることが確認された。

今回の審査では、免震性能だけではなく、部材やシステムの耐久性、設計・施工手法なども評価された。同社は「設計から施工、メンテナンスに至るシステム全体が評価されたことで、より信頼性の高いシステムとして他社との差別化が図れる」とし、今後は公的な防災機関や企業のBCP（事業継続計画）対策などをターゲットに営業を強化する考えだ。

<日刊建設工業新聞 2016年11月17日 朝刊オンライン版>

「JDC 低床免震システム」について詳しくは、当社ホームページでご紹介しております。

<http://www.n-kokudo.co.jp/001/index.html>